

ピラー10周年を迎えて

(社)山口県建設業協会 秋山 智洋 会長



ピラー創刊から10年。建設業は今まさにその使命を改めて考える時期を迎えています。

国の財政が悪化し公共事業が減り続けた近年、建設業界は大変厳しい風にさらされ、その企業数も減少を余儀なくされました。しかし地域の高齢化が進み、より安心・安全な生活が求められる現代において、私たちの仕事は本当に必要とされなくなっているのでしょうか。

地方で進む過疎化の原因の中には、都会から戻ってきて住めるような道路・学校の便利さや安全性が足りないという面があります。1時間に1本のバスを長く待つ高齢者……このような状況を放置したままでは発展には繋がりません。

地域が快適で人が集う場所になるよう、今後とも私たちは胸を張って建設業という仕事を進めていかななくてはと切に感じています。

全国建設業協会主催 社会貢献活動推進月間中央行事

イメージアップ活動で本誌ピラー

環境美化活動で宇部支部がダブル受賞!!

人々が便利に快適に暮らせるようにすることを役割と考え、公園整備や、河川整備、道路整備など、生活を守りまちを支える仕事を続ける建設業。また、災害時における応急復旧や、河川・道路等の清掃活動、地域住民との交流など、様々な社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

(社)全国建設業協会では、地域の建設業が行っている社会貢献活動を、国民に正しく理解・認識してもらうために、平成18年より毎年7月を「建設業社会貢献活動

宇部支部 谷口支部長



本部 広報担当 橋本主任





推進月間」と定め、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携して、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しています。また、その功績を称える「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」を開催。災害復旧支援、防災支援、建設業ふれあい、環境美化、環境保全、社会福祉、建設業意の啓蒙・イメージアップなどの部門別に、各県協会から申請された活動を審査し、表彰しています。

第3回目となる平成20年度は、山口県建設業協会の本誌ピラーがイメージアップ活動で、また宇部支部が環境美化活動で、「建設業社会貢献活動功労者表彰」をダブル受賞しました。県内での受賞は、平成18年度玖珂支部の旧美川町等災害復旧活動に続き、2回目となりました。

今後とも住み良いまちづくりを

目指すとともに、人とまちとの架け橋になれるよう、山口県建設業協会もより一層努力していきます。

■(社)全国建設業協会会長 浅沼健一氏より挨拶

日本列島は、台風、豪雨、地震等の常襲地帯であり、厳しい自然環境におかれています。去る2008年6月に発生した岩手・宮城内陸地震では、多くの尊い人命と貴重な財産が奪われました。



浅沼会長

被災された皆様方に、改めてご冥福とお見舞いを申し上げますとともに、被災地の日も早い復旧・復興を念じております。

自然災害が多発する我が国において、多くの国民の安全・安心な暮らしを確保するためには、防災・減災対策を一層推進するとともに、計画的な社会資本整備が喫緊の課題となっております。

私ども全国建設業協会をはじめ

め、各都道府県建設業協会及び会員企業は、災害時における応急復旧活動をはじめ、地球環境問題への取り組み等、各地域で真摯に社会貢献活動に取り組んでおります。

これからも、地域の基幹産業として、またそれぞれの「まち」に暮らす一員として、日頃から誰もが住みやすい豊かな「まちづくり」に努力を重ねるとともに、安全な国民生活、国際競争力のある経済社会の実現のため、国民にとって真に必要な公共事業を推進し、社会資本の整備及び防災・減災対策の一層の推進に努めるとともに、様々な社会貢献活動を通じ、国民に貢献していく所存です。

●ピラー

(社)山口県建設業協会の協会員の社会貢献活動及び人材活用事例等



ホームページ「山建ネット」でも紹介
(<http://www.yamaken.or.jp>)

をPRするため、平成12年より毎年2、500部発行。

「Pillar(ピラー)」は英語で「柱」を意味し、人々の生活基盤である道路や橋・住まいや働く場をつくり、守るといふ建設業の姿を映し出したタイトルとなっています。

官公庁や国会議員等を始め、県内の図書館や銀行窓口、学校、現場見学会の参加生徒など一般人の方にも見て頂けるよう1、100箇所にも広く配布するとともに、協会のホームページ「山建ネット」にも特集コーナーを設け、過去全てのバックナンバーを公開しています。